

第1回検討会の主なご意見

1. 使用済紙おむつの排出状況の把握について

- 自治体が5～10年先の排出量を推計できるような記載をすべき。

2. 使用済紙おむつの収集運搬方法について

- 感染性廃棄物について、どのような考え方をするのか、技術的にどのように収集運搬するか、また、どのように処理するかを検討すべき。
- 収集運搬方法は、安全衛生上の観点からも、袋に入れて、口を縛った状態で行う方法で十分ではないか。
- 使用済紙おむつの回収ボックス費用が高額である。
- 大規模、小規模自治体による違い、課題を整理すべき。
- 使用済紙おむつを排出する際に、排出者が面倒と感じないような仕組み作りが必要ではないか。

3. 使用済紙おむつの再生利用方式について

- リサイクル方式の検討よりも、まず、焼却かリサイクルかの検討が必要であることを記載すべき。
- リサイクルされた紙おむつをどのように使うかといった出口の部分を示すべき。
- リサイクル材を再び紙おむつ等の人が直接使用するものに使うか、建築資材にするか、燃料にするかによって基準は異なるので、それを分けて記載すべき。
- リサイクルできる施設がまだ少ないので、どの程度で採算が合うのか、見込みも記述したほうが良い。
- 入口側と出口側の両方の採算を記載する必要があるのではないか。本日発表した自治体では住民が協力的で分別が普及していると思われるが、入口側については住民の協力率が重要である。一方、出口側は各社リサイクル材で大きな収益を上げているわけではないようなので、課題があることにも言及したほうが良い。

4. その他(ガイドライン策定後の課題等)

- 今後は、EPRによる費用負担(1枚1円程度)、生産段階から回収段階までを考えた仕組み作りが必要ではないか。
- 国外への発信方法を検討すべきではないか。
- 広域的な処理は自治体の単位を超えるので、その場合にどのように連携できるかを考察する必要がある。